

令和3年2月24日（水）  
国土交通省 関東地方整備局  
河川部 河川環境課

記者発表資料

**例年より1ヶ月以上早く  
渡良瀬貯水池の貯留を開始しました。**

～2月14日に「池干し（干し上げ）」を終了～

東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会で策定した「渇水対応行動計画」に基づき、渡良瀬貯水池の「池干し（以下、干し上げ）」※を前倒しで終了し、2月19日から貯水池に貯留を開始しました。

「渇水対応行動計画」では、水資源の確保対策として3月上旬頃に「干し上げ」を終える予定でしたが、好天が続いた結果、当初の予定より約2週間早く、2月14日に「干し上げ」を終えることができました。

今後も、引き続き気象状況を注視するとともに水不足が生じないようにダム等の供給施設のきめ細やかな運用を行っていきます。

※渡良瀬貯水池の「干し上げ」：谷中湖の水を抜いて、湖底面を乾燥させること。

**発表記者クラブ**

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、  
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、神奈川県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、  
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

**問い合わせ先**

国土交通省関東地方整備局 (TEL)048-601-3151、(FAX)048-600-1379

河川部河川環境課長 あかみちしょうご 赤道正悟(内線3651)、建設専門官 つちやひでき 土屋英樹(内線3652)

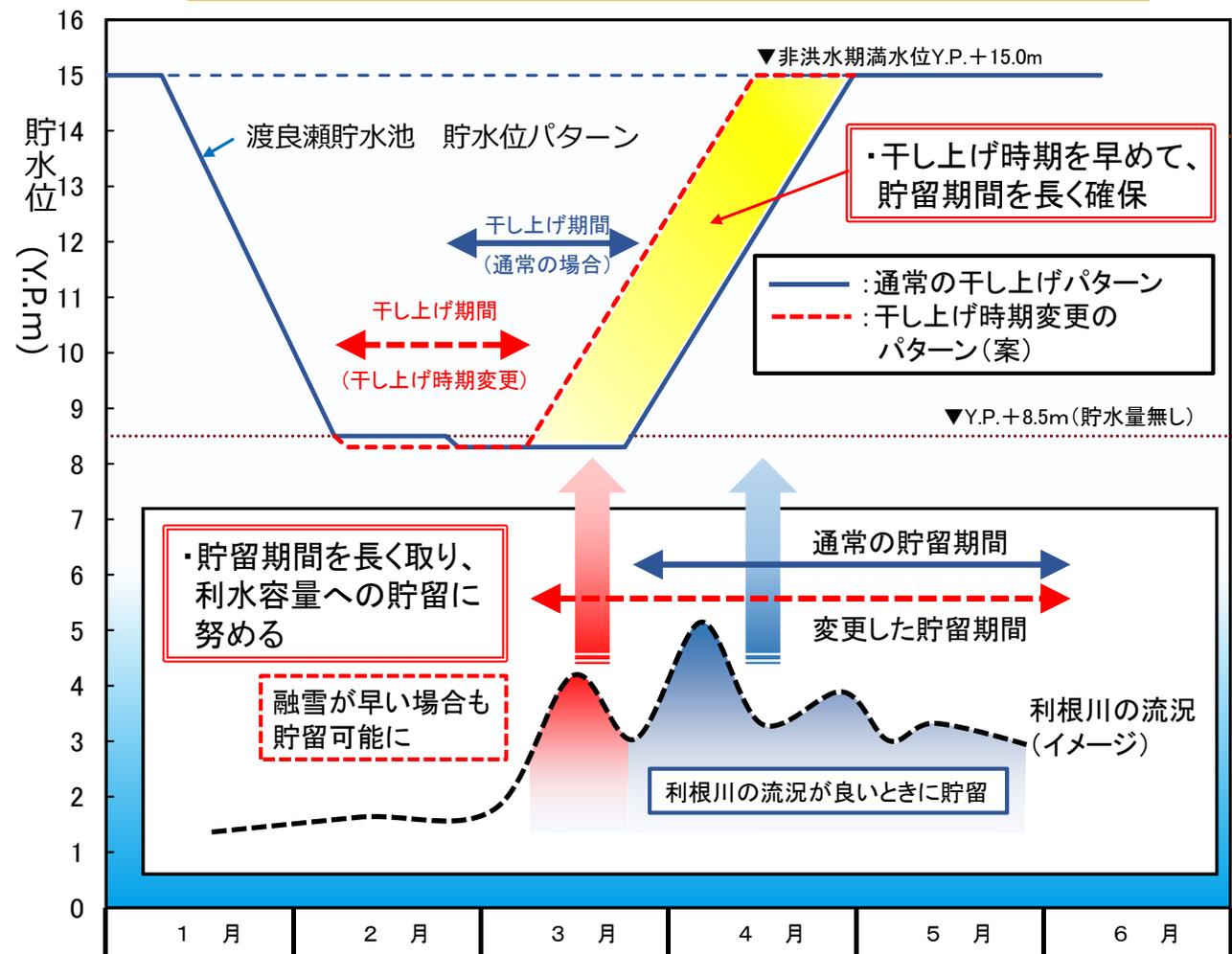
■ 渡良瀬貯水池における池干し(以下「干し上げ」)時期の変更

- 渡良瀬貯水池では、水道原水の水質保全対策(カビ臭抑制)として、1月から水位を低下させ、3月にかけて更に水位を下げて湖底面を乾燥させる「干し上げ」を実施しています。
- 干し上げの時期を早めて貯留期間を長く取ることで、利水容量への貯留に努めます。



【干し上げの目的】  
渡良瀬貯水池の水は、首都圏の水道などに利用されています。水道原水のカビ臭抑制を目的として「干し上げ」を実施しています。

干し上げ時期の変更による水源確保 (イメージ図)



■ 渡良瀬貯水池(谷中湖)は、貯水池の水質保全対策(カビ臭の抑制)として、1月30日より湖底を直射日光に当てる「干し上げ」を行っていましたが、干し上げを終了して2月19日より貯水(渡良瀬川の水を入れて貯めます)を開始しています。順調に渡良瀬貯水池に貯水が進めば、4月中旬～下旬頃に満水となる見込みです。貯水された水は、首都圏の水供給や河川の正常な機能維持のために使用されます。

渡良瀬貯水池

